

中部大会速報

8 岐阜県
岐阜総合学園 高校

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月25日

作品名

あゆみ

役者、裏方息ぴったり

紡がれる、「私」のあゆみ

25 日、岐阜総合学園高校(岐阜県)が「あゆみ」を上演した。

人の生涯を、美しく舞台上で表現し、「はじめの一步」から、「最後の一步」まで、丁寧に、時にダイナミックに表現した。

上演後、キャストの方にインタビューした。

脚本の歩みとその道

脚本の主題は、「すべての道が私につながる」である。この脚本が決定した背景には脚本に出会った後、柴幸男さんの劇を見、感動したことがあった。また、劇中では舞台装置や小道具を全く使用しないことも決定の背景に

ある。

協力し合ったキャスト
同じ人物「私」を八人のキャストで演じたことで、息切れや体力的な問題も発生せず、ダイナミックな動きが可能になった。こうした演技方では、意識や感情、性格などがバラバラになる可能性があったため、練習で揃えていった。

観客に伝えるために

集中力を養うために、ミニゲームや十分程度の短い練習を稽古の前に行った。また、良い雰囲気を作るために、独自の稽古をした。



先輩と向かい合う、あみ。

衣装に制服を選んだのは、等身大の自分たちらしく表現したかったからだ。また、キャストの人数が多いが故に、タイミングが合わせられなかったり、上手く表現できなかった期間もあった。不安が常につきものだったが、練習を重ねることで不安がなくなっていき、自信に繋がった。

演出にこだわり

大道具や小道具、衣装を使わないため、照明・音響で劇を引き出すしかないと考えた。照明では、現実・非現実の境目をはっきりさせるために工夫を凝らした。さらに道を照明で表すなど、大道具がないが故に表現できたこともあった。こうした照明の操作は慣れることが必



八人の「私」。

要とされたため、部室に機材を用意し、幾度も練習した。

発表が終わり

部の創立から二度目の中部大会であり、非常に嬉しいと同時に今まで支えてくださった方や、見てくださった方に対しても、感謝の気持ちでいっぱい。

まだ同校演劇部は歴史が浅いが、これからも部と部員が一丸となって成長していきたい。

感想カードより

集中して観る中で、道について考えさせられた。
全国レベル！(Kさん)

(担当) 徐、香村、荻田、齋藤